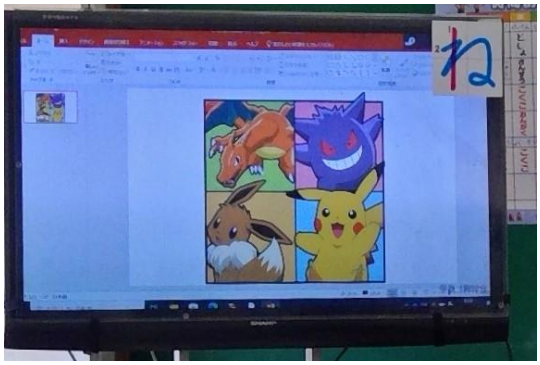
高美小学校授業だより

R7.5.8.

１年２組の国語の授業におじゃましました。



★身近なもので興味を引きつける★

ひらがなの「ね」の指導から始まりました。テレビの画面には、正方形が４等分され、それぞれの部屋にキャラクターが描かれた画像が映し出されました。鈴木先生は画面の端に「ね」の掲示物を貼り付け、「どんな形してる？」と子どもたちに投げかけました。「【れ】みたい！」「【わ】みたい！」とこれまでの知識と関連付けて考えられた発言が多く見られました。その後、字形の指導をされる際に、それぞれの部屋を、色や番号で呼ぶのではなく、キャラクターの名前で呼んで確認しておられました。子どもたちは身近なものが出てくるので意欲的に部屋を意識して発言していました。その後は指でなぞり書き、空書きを全員で行い、実際に書く時間となりました。

★近くの目標を一つ一つ確認★

「まずこの４マスを丁寧に」「次の４マスは自分のペースで丁寧に」と全体のペースを確認しながら、近くのゴールを設定されていました。その際に「長い針が○○になったら～するよ」と見通しをもつことができるような指示を出されていたので、子どもたちは落ち着いて活動することができていました。少しでも丁寧に書こうと、何度も消しゴムで消して書き直す姿も見られました。

★すぐに評価★

子どもたちが集中して取り組んでいる最中に、鈴木先生は進んだ子からどんどん丸付けをしてまわっておられました。一生懸命書いた字をすぐに見てもらうことができるのは、子どもたちの安心にもつながるのではないかと感じました。また、なおしを書き込むだけでなく、必ずはなまるの字を見つけておられたことも、子どもたちの意欲につながっているのだと感じました。「やったー！はなまる！」と喜ぶ姿と、「よし、もう一回！」と直しを頑張る姿。やり直しを嫌がる姿は一切見られませんでした。意欲的に取り組む雰囲気を作るための声のかけ方や、頑張った成果をすぐに認めてもらうことができる環境づくりによるものだと思います。

～まとめ～

　入学して約一か月の一年生。どんなことにも興味をもって、「学びたい」「やってみたい」という気持ちがいっぱいです。「新しいことを学ぶのは素晴らしいことだ」という気持ちを持ち続けることができるように、指導する側ができることは何か考えました。今年度の学力部のテーマは「はてなをもとめて、自ら学びに向かう力の育成」です。子どもたちの頑張った成果に対してできるだけ早く応えるということは、子どもたちの「もっとやってみよう」という気持ちに直結するのではないかと思いました。鈴木先生、１年２組のみなさん、ありがとうございました。